

平和はどこから？

(マタイ5・9)

一、山上の説教をめぐって

イスラエルのガリラヤ湖畔に「山上の説教の丘」と呼ばれる場所があります。かつて主イエスが「山上の説教」を語られたと言われている場所です。マタイの福音書5章1節には「この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。」とあります。「山」と書かれています。そこは、そこはどう見ても丘であり、山とは言えない場所です。であるなら、マタイの福音書は、なぜ山と書いたのでしょうか。それは、地形的な意味以上の思いをもって「山」と書いた可能性が大きいです。神が言葉を賜わる場所としての山です。

二、平和をつくり出す者

きょうの聖書箇所には、「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」とあります。皆さまは、「あなたは平和をつくる者ですか」と問われたら、何と答えるでしょうか。私たちは、人々が争っているところに出て行き、あるいはいがみ合っている中に入っていく、そこに平和をつくり出すことはできるでしょうか。かつて主イエスが生まれられた時代、

ローマ帝国がヨーロッパ、及び中東地域を治めていました。強靱なローマ帝国が治めることによってもたらされた平和を、「パクス・ロマーナ(Pax Romana)」、すなわち「ローマの平和」と呼びました。おそらく人間が考える平和は、いつの時代も強い軍勢力、また軍勢力に裏打ちされた政治力を持つ国家が治めることによってもたらされるものです。では、神がもたらす平和とは何なのでしょうか。これは、長い時間をかけて醸成されてきた旧約聖書に見いだすことができます。まことの平和は、創造主なる神との関係においてもたらされます。

三、「神の子」をめぐって

聖句の後半に「その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」とあります。新約聖書は主イエス・キリストを指して「神の子」と語っています。たとえば、マルコの福音書1章1節の「神の子イエス・キリストの福音のはじめ。」です。きょうの聖句の「神の子ども」は、その複数形が使われています。ちなみに、ヨハネの福音書1章12節の「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」の「神の子ども」は別の言葉です。ですから、主イエスは、そしてこの福音書を著したマタイは、特別な思いで「神の子どもたち」と語っ

た可能性が大きいです。それは何なのでしょうか。

実は、イエスの時代、「神の子」と呼ばれていた方がいました。それはローマ帝国の皇帝です。強靱なローマ帝国がもたらすパクス・ロマーナ、すなわちローマ帝国がもたらす平和の頂点にいたのが「神の子」と呼ばれた、ローマ帝国の皇帝でした。一方、キリスト教会は、自分たちは神によって呼び集められたという意識を持っていました——今日も同じですが——。そういう、イエス・キリストを主と信じる一人ひとりが「平和をつくり出す人々」と呼ばれています。「平和をつくり出す者として召されている」と言った方が、適切かもしれせん。教会は神との平和を賜ったことにより、平和をつくり出す者として召されています。そのような意味合いで、主イエスは教会を指して「神の子たち」と呼んだのではないのでしょうか。

また、「神の子たち」とは「神の息子たち」であり、「神の意思をあらわす者たち」の意味もあります。なぜなら、「息子」とは、親の気持ちを知り、親の意思をあらわすことをもって「息子」だからです。私共が、父なる神の御意思を自ら求め、神の御意思が自分たちを通してあらわれるように願うなら、「神の子たち」、すなわち「神の息子たち」になります。

四、「神の子」と呼ばれる人

私たちは自動的に「神の意思をあらわす者たち」、すなわち「神の子たち」「神の息子たち・娘たち」になるのではなく、主イエスを信じ、主イエスに求め、主イエスに自らをささげる中で、そうなります。もちろん、自分の努力ではなく、神の恵みによってですが。たとえば、人生の中で「あんな人はいない方が良い」と思いたくなることもあるかも知れません。ですが、主イエスと交わりを持っている人は、「あの人も神によって愛されている人だ」という思いに導かれます。

また、「神の子たち」「神の息子たち・娘たち」である私たちは、遣わされている者であると知っています。主イエスは言われました。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」(ヨハネ20・21)と。では、どこに遣わされるのでしょうか。自分が一番行きたくないところですか。主は次のようにも言われました。「まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かつた時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」(ヨハネ21・18)と。私共は「平和をつくり出す者」として遣わされます。